



都城市の花「あやめ」

発行：都城市教育委員会「都城市教育研究所」

〒885-8555 都城市姫城町6街区21号 都城市庁舎南別館3階

研究所だより



「笑顔の花」

都城市教育委員
宮田 若奈



春のおとずれが待ち遠しい今日この頃ですが、みなさま、いかにお過ごしでしょうか？

さて、教育委員を拝命してもうすぐ2年がたとうとしております。教育大学卒業の私は、子どもが本来もっているものが活かされて、ひとりひとりが輝く人生を歩んでいけるお手伝いができればいいなと思い、委員を引き受けさせていただきました。このような多様な時代の中で、四六時中ががんばっていらっしゃる先生方には本当に日々、頭が下がる思いです。

なぜ私自身がこのような思いになったのかを、ほんの少しお話しできればと思います。

私は生まれは都農町なのですが、両親の都合で0歳から小学校2年生まで静岡県で暮らしていました。

小学校3年生で都農町に引っ越ししてきました。当時、静岡県からの転校生の私は方言の違いなどで仲間はずれにされたりした経験があります。

ひとりぼっちで教室にいる私。誰を信用していいかわからなく孤独感を感じている私。家に帰ったら、お父さん、お母さんには心配をかけたくなくて、何も言えなかった私。

心の中ではいつも「誰か助けて」と思っていたのですが、それが言えませんでした。

そして、小学校5年生の頃、まだまだ人前にたつこともできないタイプだった私でしたが、担任の先生の対応で私自身

のそれからの生き方が大きく変わった出来事がありました。

教室の壁に飾られていた修学旅行の私の顔写真に画鋏がさされていたのを発見した先生は、真摯にひとりひとりにヒアリングして、解決に向かうことをしてくださいました。いつも私に寄り添い、先生は私に自信を与えてくださいました。

「あなたならできる。大丈夫。」

たったこれだけの一言が、引込み思案だった私に勇気を与え、クラスの委員長になったり、そこからはいじめに関しては断固とむきあい、弱いものをいじめる男の子たちには立ち向かい、転校生がいじめられそうになったらかばったり、自分が防波堤になったりするようになりました。

子どもたちに寄り添う者にとって、日常に発する言葉は、あるときは宝物に、あるときは心の傷になってしまうほど重要だと思っています。



今の時代は、多種多様な課題がたくさんあり、現場ではひとつの答えは見つからないかもしれないのですが、人間としての生き方として大切なことは、相手に寄り添うことだと信じています。

委員としてもチンドン屋としても、目の前の人に寄り添い、その人たちが道路のわき道に咲いている花を見てにっこりと微笑むような光景をいつも夢見ています。

私が尊敬するマザーテレサの名言から。

- ◇ この世界は食べ物に対する飢餓よりも、愛や感謝に対する飢餓の方が大きいのです。
- ◇ 誰かに微笑みかけること、それは愛の表現であり、その人へのすばらしい贈り物となるのです。
- ◇ 笑顔は愛の始まりですから。

今日も朝一番のあなたの笑顔からはじまり、はじまり。

子どもたちが主役の授業

所長 曾原良平

なんととっても、教育研究所から見える冬の霧島は雄大だ。山頂に雪を被り、朝霧もかかる霧島。そのゆるぎない姿を見るたび身が引き締まり、一日の活力が湧いてくる。

「子どもたちが主役の授業」について、日々研究している。

子どもたちは、急速に変化する社会、予測困難な社会を生きていく。課題を見つけ、自分の強みを活かしながら、個別的、協働的に解決して、生きていかなければならない。

あらゆるツールを活かす力も必要である。

日々の授業とは、そのような力を、子どもたちに身に付けさせるものだ。

授業では、先生は脇役だ。脇役であるけれど、どしりと備えてゆるぎない姿を、子どもたちに見せ、安心感を与える。常に学びの先を読み、子どもたちの微細な変化をとらえる。学びの成立を助けるのが先生だ。

一人一台の端末も、学習ツールとして役に立つ。活用次第で、学びのスタイルの幅を広げることができる。学びのスタイルが変われば、子どもたちの可能性が広がるのだ。

授業スタイルを変える。

子どもたちの学びのスタイルを変える。

そうすれば、子どもたちは社会を生きる力を手にすることが出来るのだ。

「子どもたちが主役の授業」とは、生涯に渡って、学び続け生き続ける力を与える授業なのだ。

ゆるぎない姿で、子どもたちの学びに寄り添ってほしい。その先生の姿に安心して、子どもたちは自分の「学び」を創り上げていくことだろう。

国語科班

国語科班は、問いのもたせ方の工夫、IOR学びのサイクルモデルをベースとして、単元縦断の考えを意識しながら、子どもの問いを生かした深い学びにつなげることをねらいとして、実践研究を進めてきた。

研究のあゆみ

4月

開所式

5月

研究の構想

6月

- 「IOR学びのサイクルモデル」について

7月

- 検証授業に向けて「問いのもたせ方」について

8月

- 検証授業に向けて教材研究及び授業構想

9月

- 検証授業に向けて指導案検討

10月

検証授業 1

- 「俳句の可能性／俳句を味わう」祝吉中学校 第3学年
授業者 浜松 泰光

11月

検証授業 2

- 「じどう車くらべ」山之口小学校 第1学年
授業者 赤木 惇一

12月

- 成果と課題の整理

研究のまとめ

1月

- 研究紀要まとめ
- 研究発表会に向けて

2月

研究発表会

- 次年度に向けて

3月

研究の構想

単元を通した「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習過程

単元を貫く言語活動の設定

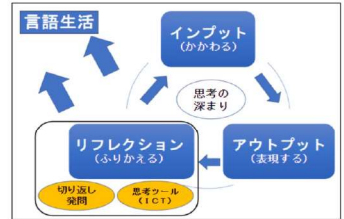
単元で付けたい力の把握、言語活動の特徴の整理、児童・生徒の実態等を考慮した言語活動の設定を行う。

児童・生徒の問いを引き出し、単元を通してそれらを追及できるように、単元の学習計画を構成していく。

都城市教育研究所IOR学びのサイクルモデル

筑波大学附属小の「IOR学びのサイクルモデル」を参考に作成した授業サイクルモデル。

児童・生徒の思考を揺さぶるために、ICTを活用した思考の可視化や切り返しの発問などを単元の中に計画的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図っていく。



検証授業 1

「俳句の可能性／俳句を味わう」祝吉中学校 第3学年

【単元で付けたい力】

語句や表現の仕方を考え、自分の思いが分かりやすく伝わる俳句になるように工夫する。

学びの確認

- ① 俳句の特徴について理解している
- ② 表現を工夫して、俳句で自分の伝えたいことを伝えることができる。
- ③ 内容や表現の仕方に着目して、俳句を評価することができる。

- 学習を通して学びたいこと（個人目標）
- ・ 俳句を語句や切れ字を使って工夫して作れるようにしていきたいです。

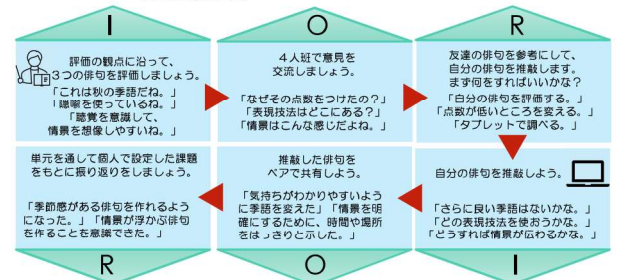
単元を貫く問い・目標を立てる

【本時のねらい】

語句や表現の仕方を考え、自分の思いが分かりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。

【手立て】

- ・ ICTを活用して生徒の思考を整理・共有する。
- ・ 教師の切り返しの発問によってリフレクションを促し、思考を深める。



【IOR学びのサイクルモデルに合わせた教師の手立て及び生徒の反応】

検証授業 2

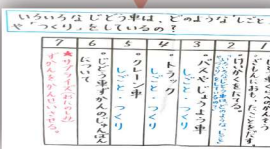
「じどう車くらべ」山之口小学校 第1学年

【単元で付けたい力】

事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える。

【問いを見出すために】

タイトル読み・読後感の活用言語活動の設定



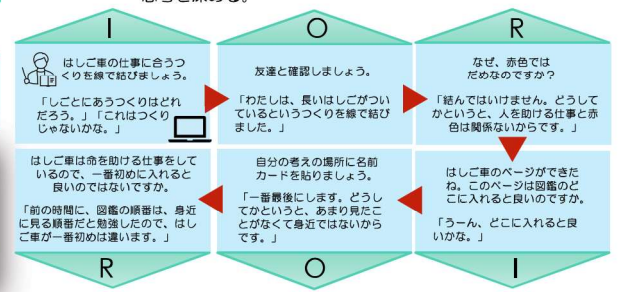
単元を貫く問い・学習計画を作成する

【本時のねらい】

はしご車のしごととつくりをとらえる。

【手立て】

- ・ ICTを活用して生徒の思考を整理する。
- ・ 教師の切り返しの発問によってリフレクションを促し、思考を深める。



【IOR学びのサイクルモデルに合わせた教師の手立て及び生徒の反応】

【研究の成果（○）と課題（●）】

- 先を見通した単元計画を立てることで、児童・生徒が目的をもって学習の積み重ねができた。その積み重ねは、ICTを活用することで教師も子どもも常に考えを共有したり、学びの変化に気付いたりすることができた。
- リフレクションを促す切り返しの発問をすることで、児童・生徒が主体的に自分の言葉で考えを述べたり、共有したり、練り直ししたりする姿が見られた。
- 単元縦断型授業を展開することで、児童・生徒が学習をどのように進めるか考え、実践する姿が見られた。
- リフレクションについては、児童・生徒の様々な考えを引き出すことや思考を深めるために、さらに研究をしていく必要がある。

算数・数学科班

算数・数学科班は、ICTを活用した知識構成型ジグソー法や思考ツールを活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現をねらいとして、授業実践研究を進めてきた。

研究のあゆみ

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月

開所式

研究の構想

○ パフォーマンス課題についての研究

○ 知識構成型ジグソー法についての研究

○ 検証授業に向けて教材研究及び授業構想

○ 検証授業に向けて指導案検討

検証授業 1

「図形の拡大と縮小」
西小学校 第6学年
授業者 井手 省吾

検証授業 2

「変化と対応」
妻ヶ丘中学校 第1学年
授業者 森 瑞樹

○ 成果と課題の整理

研究のまとめ

○ 研究紀要まとめ

○ 研究発表会に向けて

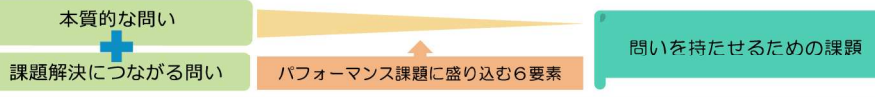
研究発表会

○ 次年度に向けて

研究の構想

問いを持たせるための課題

学習指導要領等から、領域の「本質的な問い」と単元の「課題解決につながる問い」を明らかにし、「パフォーマンス課題のシナリオに盛り込む6要素」を踏まえて作成することができる。



① 本質的な問い

学問の中核に位置する問い/生活との関連から学ぶ意義が見えてくるような問い

② 課題解決につながる問い

単元の目標や、毎時間の授業の目標から明らかにする

③ パフォーマンス課題に盛り込む6要素

①②をもとに、現実的で真実味を帯びていて、学んだ数学を活用できるような課題＝「問いをもたせる課題」を、パフォーマンス課題に盛り込む6要素を踏まえて作成する。

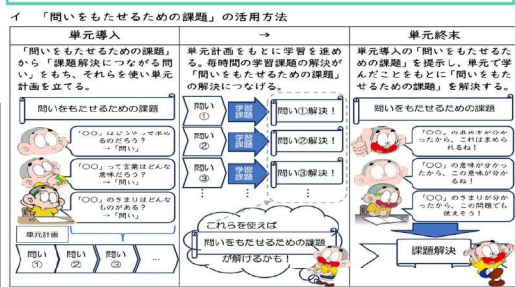
【図2：パフォーマンス課題のシナリオに盛り込む6要素】
な・・・何がパフォーマンスの目的か？
ヤン・・・(学習者が担う、シミュレーション)役割は何か？
だナ・・・誰が相手か？
アア・・・想定されている状況は？
う・・・生み出すべき作品は何か？
か・・・(評価の)観点(成功のスタンダードや標準)は？

領域の「本質的な問い」

領域	領域の「本質的な問い」
数と計算(式)	<ul style="list-style-type: none"> なぜその数は必要なのか？ なぜ文字式を使うのか？ どうすればうまく計算できるか？
図形	<ul style="list-style-type: none"> 図形にはどのような形や位置関係があるのか？ 図形の性質を規定するものは何か？
測定・変化と関係関数	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおけるさまざまな量は、どのように表し、測定・計算すればよいのか？ 自然や社会にある、伴って変化する2つの数量の関係を代数的・視覚的に捉え、未知の数量を予測するにはどうすればよいのか？
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じてデータを集めたり、表現したり、分析したりするにはどのような方法があるのか？ 不確実な事象や集団の傾向を捉えるにはどうすればよいのか？

「教師の『深い学び』を実現するパフォーマンス評価」西岡加典・石井英真 pp.58-63 をもとに作成

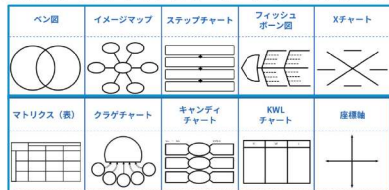
「問いをもたせるための課題」の活用方法



深い学びを促す学習方法の工夫

思考ツールの活用 思考ツールは、「自分の考えを作り出す」ことを助けてくれる道具のこと。

「比較する」「分類する」「関係づける」など、考えるときのさまざまな思考パターンを図で示すもの。



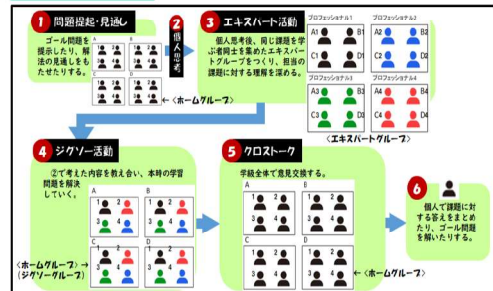
物事をどのように考えると、問題点や解決の方向性が見えやすくなるのかわかる。

「考える時の考え方」が分かるため、それぞれのツールの特徴を知った上で、活動と組み合わせると、スムーズに自分の考えを作り出すことができ、思考力を育むことができる。

「問いをもたせるための課題」から「課題解決につながる問い」を引き出す場面や、単元学習で解決の方向性を掴む場面で、問いを順序づけたり、分類したりするために活用する。

知識構成型ジグソー法

東京大学CoREFの三宅なほみ名誉教授によって提唱された学習方法である。テーマや課題について、役割分担をして学習を行い、それら交換・統合して答えを作り上げるという協働学習の手法の1つ。



3つのメリット

- 自主的に考える力が備わる
- 積極的に授業に参加することができる。
- 協調性が培われる。

「問いをもたせるための課題」を解決する場面で、いくつかの考え方を組み合わせたり、多様な考えから最適解を導いたりするために活用する。

【研究の成果(○)と課題(●)】

- 「問いをもたせるための課題」を単元導入で提示することで、児童生徒が単元を見通した「課題解決につながる問い」をもつことができ、単元終了で取り組むことで、単元の既習事項を生かして問題を解こうという児童生徒の姿が見られた。
- 児童生徒が Jamboard で思考ツールを活用することで、自分の思考を整理したり、疑問について話し合ったりする姿が見られた。思考ツールを、授業の中で継続して活用することも重要であることが分かった。
- 「問いをもたせるための課題」の作成には大きな労力がかかる。教科書等の問題を活用して容易に問題づくりができる方法を提案していくことや、「問題例集」などを作成して現場の先生方の負担を減らすことが本研究の活用につながると考えられる。
- 児童から出た問いを、授業者が把握して焦点化・明確化することが難しかった。それを授業内の限られた時間で行うのに、思考ツールや ICT の活用は有効であると考えられる。

ICT班

令和5年度は、1人1台端末の導入3年目にあたる。本年度は、「教育におけるICTの効果的な活用」についてまとめ、Google Workspace for Education の各種ツールの効果的な活用の在り方について授業実践に取り組んできた。

研究のあゆみ

4月

【都城市】
ステップ3構想（深い学び）
運用開始

開所式

5月

研究の構想

- 研究内容の提案・研究

6月

- 授業力向上セミナーに向けて（発表内容確認）

7月

- 出張ICT研修会に向けて（内容確認）

出張ICT研修会

8月

- 教科班授業研究支援

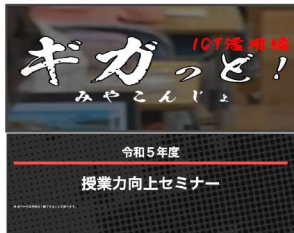
9月

- 授業力向上セミナー
プレゼン動画制作

- 教科班授業研究支援

授業力向上セミナー

10月



11月

研究のまとめ

- 成果と課題の整理
- 研究紀要まとめ
- 研究発表会に向けて

12月

研究発表会

- 次年度に向けて

① 教育におけるICTの効果的な活用

教育における、「ICTの効果的な活用」とは、目標の達成といった「教育における『期待通りの良い結果』」を達成するために、ICT機器を活用することである。すなわち、教師は、授業作りの段階で目標・目的を明確にし、その達成にむけてICTを活用していくという考え方が必要になる。

つまり、ICTを効果的に活用ということは、教育の目標や教科の目標、めあてという、教育における「期待通りの良い結果」を達成するために、ICTを活用し、児童の資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現につなげるということである。

効果：ある行為によって得られた期待通りの良い結果
効果的：「効果」のある様

期待通りの良い結果

教育の目標

教科の目標

主眼めあての達成

知・技

思・判・表

学びに向かう力・人間性



それぞれの目標を達成させるためにICT機器を活用し、その達成の一助になれば、効果的な活用と言えるのではないか。

② Google Workspace for Education の各種ツールの活用例

Google Sites の活用事例 Google Workspace for Educationのツールの1つに、Google Sitesがある。一般的にはホームページ制作ツールであるが、教育現場において、さまざまな活用ができる。

<国語科での活用例>

単元全体に関する情報や板書、児童の感想などをまとめたサイト（小4「ごんぎつね」）



統計資料を扱って説明文を作る活動で、統計資料を収集し、児童が選んだ資料を貼って整理したり、フォームを挿入して活用。（小5「固有種が教えてくれること」）



学力向上に効果的な活用例

①にあるような「効果的な活用（期待通りの良い結果の達成に向けた活用）」を意識することによって、学力向上にICTは有用であり、学力向上に向けたICTの活用は今後必須であると言える。以下、学力向上に繋がった活用例である。

Formsを活用した小テスト（習熟・定着）

1 単位時間の授業内容の中で、特に定着させたい語句や内容を5～7問ほど解かせ、知識技能の習熟・定着を確認できる。

テスト結果の分析情報の例

Slidesを活用した意見の収集・情報交換

Slidesのスピーカーノートに、生徒が意見を入力。意見交換の手段として効果的

スピーカーノートにコメント

学習ゲームの活用

小4算数「垂直・平行と四角形」において、習熟ゲームを教師が自作して取り組ませた。

教科横断を進めるためのヒント



「トピック」を活用した教科の振り分け
クラスの分け方を教科ごとにするのではなく、一つのクラスを作成し、トピックを活用することができる。複数の教科を網羅する際に便利。



クラウド上への学習の記録の保存
教科横断を充実させるためには、関連する教科の内容を想起できることが必要である。クラウド上に保存すると、先々活用しやすく便利。

【研究の成果（○）と課題（●）】

- 「効果的な活用」の言葉の分析を行ったことで、授業や校務において、どの場面でICTを活用すれば良いかを、教材研究の段階で考えやすくなった。また、今後のICT活用の指針とすることができた。なお、情報共有サイト（「ギガっと!みやこんじょ」）において、都城市授業力向上セミナーのビデオで啓発することができた。
- Google Workspace for Education の各種ツールにおいて、活用の少ない「サイト」の具体的な活用法を示すことで、今後単元縦断、教科横断の授業を充実させるヒントを提示することができた。
- 学力向上に効果的な活用例を示すことで、ICTと学力向上についてのヒントを示すことができた。
- Google Workspace for Education の各種ツールを利用した、「わ・さ・び」の授業における効果的なICTの活用の仕方について様々な場面で啓発していく必要がある。

～所感～

主任

今年度も、都城市教育研究所で、楽しい1年間を過ごせました。GIGAスクール3年目の研究に参加できたことを心から感謝しています。また、御協力いただきました皆様、ありがとうございました。ICT機器を活用することは児童生徒はもちろん私達自身の人生においても大切なことですね。

(南小学校 原 圭史：主任/ICT研究班)

国語科班

昨年度に引き続き、様々な先生方と共に考え、多くの学びを得ることのできた充実した1年となりました。研究を通して、「子ども主体の授業の在り方」については、今後も私自身の課題になりました。研究所での学び、そして、目の前の子ども達から得る学びを生かして、これからも精進していきます。

(丸野小 向井 永吉)

昨年度に引き続き、研究所員として活動しました。メンバーや研究内容も変わり、多くの新たな学びがありました。小学生や中学生が目を輝かせながら授業を受ける姿を見て、研究のやりがいを味わいました。ここで得た経験をこれからの指導に生かしていきます。ありがとうございました。

(高崎中 矢野 善隆)

今年度、この研究所で様々な先生方から多くのことを学ばせていただきました。前向きに研究に取り組む研究所の先生方の姿を見て、私自身もっと学んでいかなければならないのだと気付くことができました。ここで得た経験を都城市の子どもたちのために活かしていきたいと思えます。1年間ありがとうございました。

(山之口小 赤木 惇一)

子どもが主役の授業づくりについて、素敵な先生方と共に研究することができ、非常に充実した1年間になりました。単元縦断型の授業やIORサイクルにおける切り返しの発問など多くのことを学びました。これからも目の前の子どもたちが主役になれる授業を目指して学び続けていきたいです。1年間ありがとうございました。

(祝吉中 浜松 泰光)

算数・数学科班

昨年度に引き続き研究所で学ばせていただきました。今年度の「単元縦断・教科横断」というテーマに基づいた研究は、未知の領域であり、新しい学びがたくさんありました。また、班長という立場で参加させていただき、チームとして学ぶことの大切さを実感しました。ありがとうございました。

(白雲小中 本蘭 理子)

素晴らしい先生方と「子ども主体の授業のあり方」をじっくりと考えることができた1年間でした。研究授業では、生き生きと目を輝かせて課題に取り組む子どもたちの姿を見ることができ、この研究に取り組んできて良かったと実感しました。得た学びを日々の授業でも生かしていきます。ありがとうございました。

(祝吉小 大迫 伸)

今年度のテーマであった、「単元縦断・教科横断」という考え方は、今後も活用していきたいです。研究授業を通して、Googleジャムボードや思考ツール等、子ども達が日常の授業でICTを使うための指導法を考えることができました。素晴らしい先生方と学べて、実りの多い1年になりました。ありがとうございました。

(西小 井手 省吾)

問いをもたせるための課題について、知識構成型シグソー法を用いて検証授業を行いました。生徒がICTを活用して、主体的に課題を解決しようとする姿が見られました。この1年間の学びに感謝し、今後の指導に生かしていきます。ありがとうございました。

(妻ヶ丘中 森 瑞樹)

～所感～

ICT班

今年度より初めて研究所に参加させていただきました。様々な学校の先生方から、最新の教育について学ぶことができ、この1年間とても成長できたのではないかと感じています。この経験を活かせるよう、今後も研鑽に励んでいきます。ありがとうございました。

(明道小 山田 駿)

都城市研究所員として、活動させていただき多くの学びがあったと実感しています。先生方と活発に情報交換を行う中で、今まで気づけなかった視点や考え方に触れることができ、充実した1年間でした。これからもより生徒・児童にとってベストな授業とは何か考え、共有できればと思います。ありがとうございました。

(西中 白尾 佳資)

今年度、研究所に参加させていただいて、多くの先生方から、毎回たくさんの刺激をいただき、大変勉強になりました。ICT機器を通して、子供が主役の授業、教師が脇役の授業をここで研究させていただく中で、私自身にとっても大きな学びとなりました。ここでの学びを、今後の教員生活に生かしていけるよう、精進しようと思います。ありがとうございました。

(東小 萩原 慶季)

南九州大学聴講生

今年度も聴講生として参加させていただき、先生方の研究授業や日々の授業実践から大学の授業では学ぶことのできないことをたくさん学ばせていただきました。3年間、このような勉強の機会をいただくことができ、とても感謝しております。

(南九州大学 本田 栞理)

今年度、都城市教育研究所の国語班に聴講生として参加させていただき、単元全体を見通した指導計画や「問い」の大切さなどについて多くのことを学ばせていただきました。研究所での学びを今後に生かしていきます。ありがとうございました。

(南九州大学 郡司 倫己)

ICT班で単元全体を見通した授業や、目的に応じたICT活用について学ばせていただきました。児童の実態に応じて、日々の教材研究や授業を振り返ることの重要性を学ぶことができました。ありがとうございました。

(南九州大学 平田 理佐)

ホームページ更新中！

都城市教育研究所



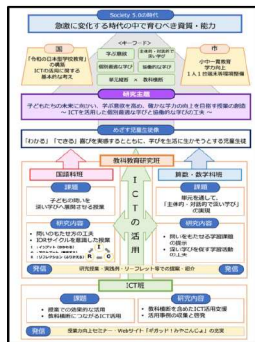
<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc057/>

都城市教育研究所



1 本年度の研究内容が見られます！

研究主題や研究構想図を載せています。私たちの研究を見ることができます！



3 明日使えるICT活用術が見られます！

今すぐ使えるICT活用方法が満載です。明日からの授業で活用してください。

2 過去の研究所通信が見られます！

教育研究所通信



研究所の様子や授業力向上セミナーの様子などを載せてあります。

ぜひご覧ください！

